

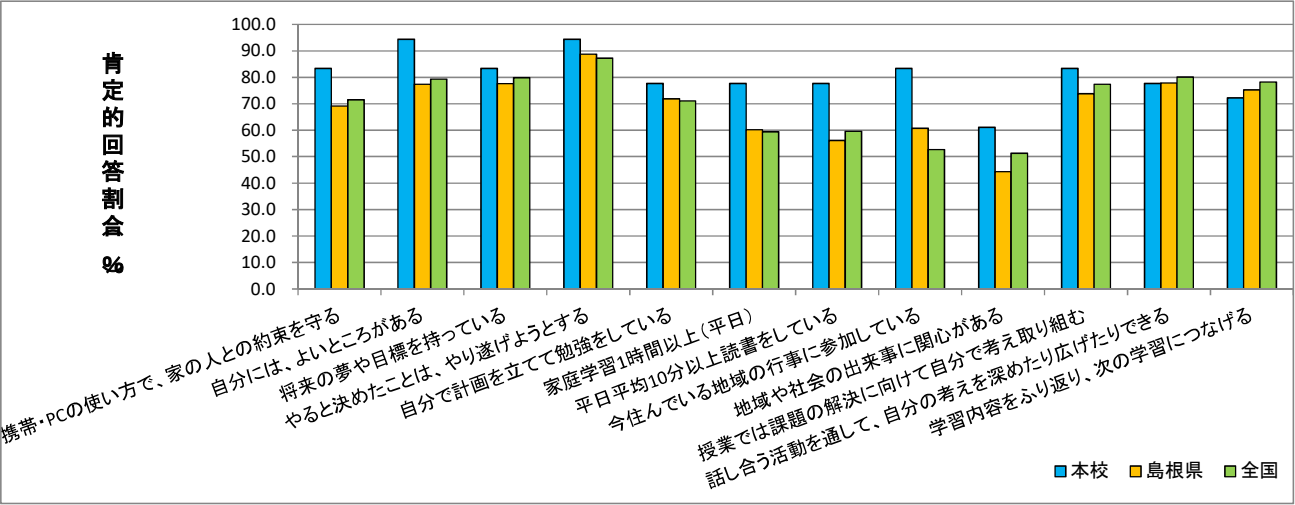
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○平均正答率が県及び全国よりも6%以上高い。思考力、判断力、表現力等のB書くことの内容の正答率は県及び全国よりも12%以上高い。 ●互いの立場を尊重しながら意図を明確にして話し合い、自分の考えを広げたりまとめたりすることについて誤答が多かった。	・効果のあった指導法は、そのまま継続して行っていくが、児童の実態などに合わせ変更していく。 ・過去に学習したことを想起し、定着できるようにする。例えば、立場を明らかにして、問題点に対する解決方法を字数制限の中で、書くこと等、繰り返し取り組んでいく。 ・タブレットドリルなどを用いて、過去の学習の復習を行う。
算数	○数量関係・図形・データの活用に関わる基礎的な知識が理解できている。特に、データの活用における、目的に応じたグラフを選択し、必要な情報を読み取ることは、全国並びに県平均より20ポイント高く、9割近くの正答率であった。 ●基礎的な知識は身に付いているが、題意を十分に把握せずに回答する傾向にあり、数の処理は8割近くの児童が誤答だった。	・日常の具体的な場面につながるような問題解決の場面で、既習事項を活用しながらの解決方法を伝え合う場면을効果的に授業に取り入れる。 ・多様な解決方法を分析し合う場面も取り入れ、目的に応じた納得解を協働的に学び合うような授業改善を図る。
理科	○学習課題の設定を工夫し、根拠ある予想や再現性のある結果、日常生活とのかかわりについて考えるように指導してきたことは、理科学習に対する関心を高めることにつながった。 ●昆虫の体のつくりなど過去に学習したことが、知識として定着していないものもある。	・効果のあった指導法は、そのまま継続して行っていくが、児童の実態などに併せ変更していく。 ・過去に学習したことを想起し、定着できるように学習の中や短時間の学級活動の中で話題にするなどしていく。 ・タブレットドリルなどを用いて、過去の学習の復習を行う。

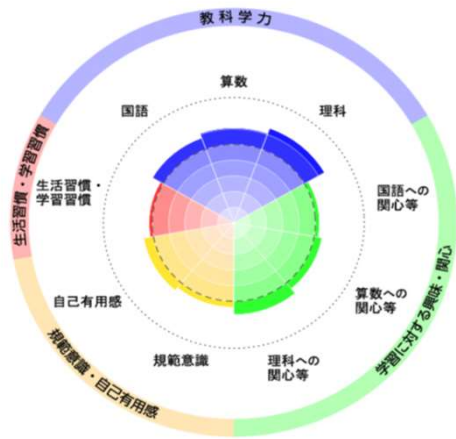
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○地域の出来事に関心が高く、地域行事に参加する児童が多い。 ○家庭学習の一つとして読書を勧めることで、読書をする児童が増えている。 ●話し合うことによって考えを深めたり、学習内容を振り返ったりして次の学習につなげたりすることに課題がある。	・今後も家庭学習や家庭での読書を勧めていく。 ・家庭学習では、自学ノートを紹介し合うなど自学を奨励し、興味があることを調べたり苦手な教科の復習をしたりする。 ・授業においては、話し合うことで、よりよい解決策を見つけたり考えが深まったりするような話し合いの進め方ができるようにする。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

児童が主体的に取り組むことができるように、また、個別最適学習の実現を目指して、授業改善をさらに進めていく。
具体的には、教科の導入部分のあり方、課題提示の仕方、児童が主体的に話し合うための教師の発問等の工夫を中心とした授業改善。さらに、タブレットなどのICT機器を効果的に用いた授業などを中心に取り組んでいく。

【受検者数】

16 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。